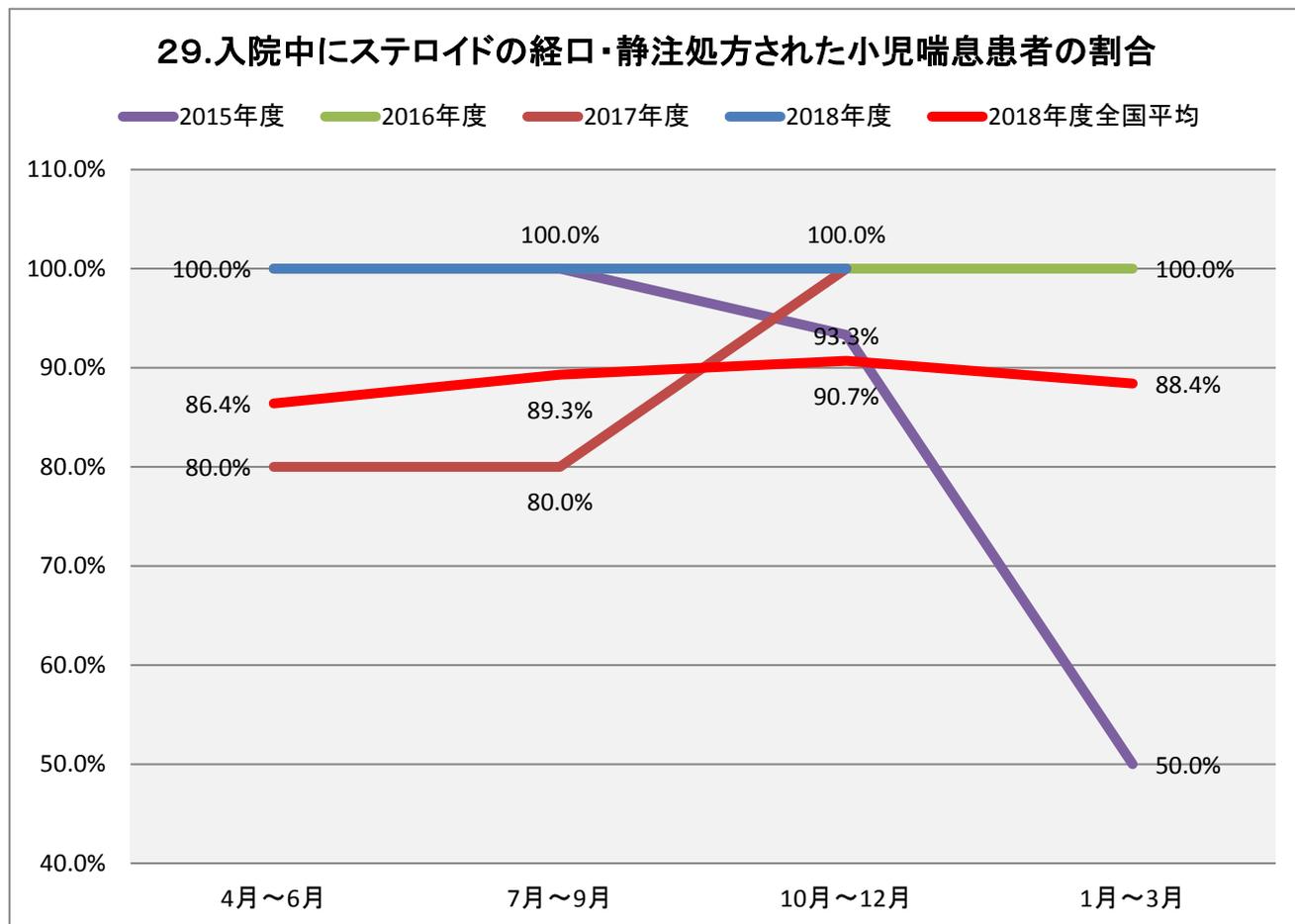


29.入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合

(1) 調査結果



| 調査期間 | 4月～6月 | 7月～9月 | 10月～12月 | 1月～3月 |
|------------|--------|--------|---------|--------|
| 2018年度 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 2017年度 | 80.0% | 80.0% | 100.0% | |
| 2016年度 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 2015年度 | 100.0% | 100.0% | 93.3% | 50.0% |
| 2018年度全国平均 | 86.4% | 89.3% | 90.7% | 88.4% |

※2017年度1月～3月は当院対象患者なし

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012および2017において、喘息発作の強度に応じた薬物療法が基本治療となります。

(2) 指標の説明

薬物療法は、早期に十分な効果が得られたのちに良好な状態を維持できる必要最少量まで徐々に減量するほうが、小児患者さんの生活の質(QOL)の向上のためには好ましいと考えられています。

(3) 定義

分子: 分母のうち、入院中にステロイドの全身投与(静注・経口処方)を受けた患者数
 分母: 2歳から15歳の喘息患者のうち、喘息に関連した原因で入院した患者数